

7つのイノベーションを実現する 体系と領域

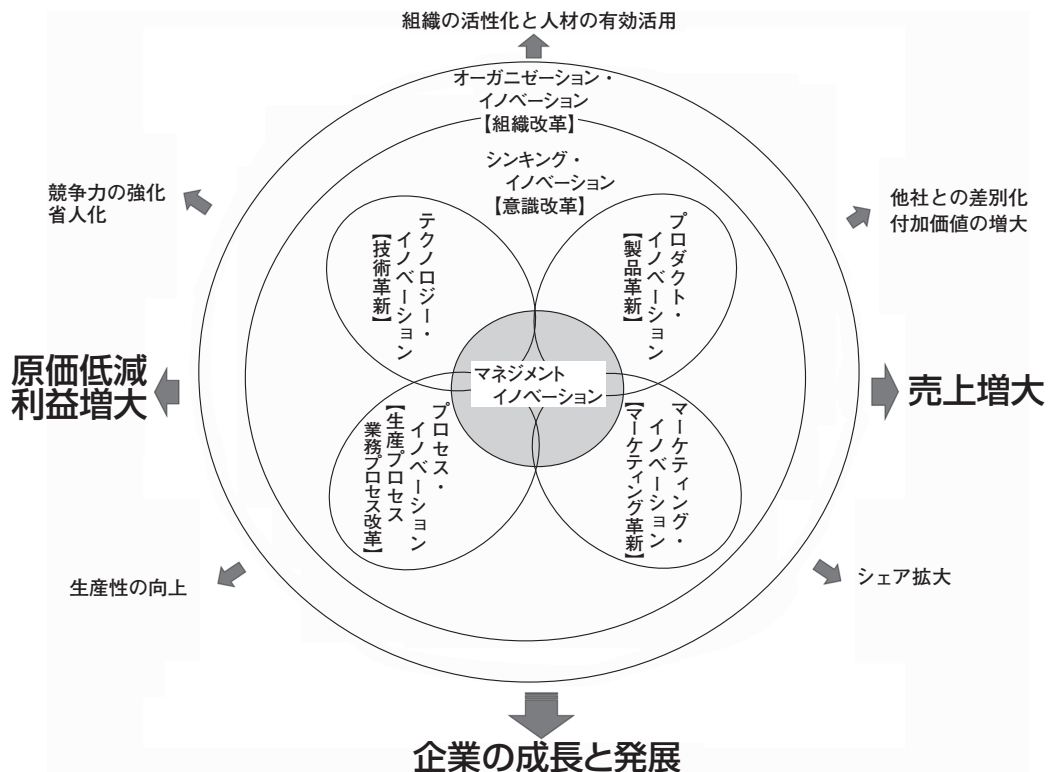
総論では、企業が成長と発展をするためには、マネジメント力の飛躍的な向上とさまざまな観点からのイノベーションを実現していくことが不可欠であるという考え方を紹介した。

イノベーションは、図1の体系イメージのように、7つのイノベーションが相互に関連し、影響し合ってさまざまな大きな成果を実現できることがわかっていただけだと思う。そして、その主軸になるのがマネジメント・イノベーションであり、各イノベーションを実現する際には、マネジメント・イノベーションの考え方をもとに、従来のマ

ネジメントのやり方を変えていくことが不可欠である(マネジメント・イノベーションのヒント集を参照)。

進め方としては、関連するイノベーションを考慮しながら、重要課題もしくは取り組みやすいイノベーションから段階的に実現していくことが効果的であるが、シンキング・イノベーションが実現すると従業員1人ひとりがイノベーションに対して前向きに取り組みやすくなることから、その他のイノベーションについても促進しやすくなると思われる。

図1 7つのイノベーションの体系イメージ



イノベーションは、組織全体が長期的に進める大がかりなイノベーションばかりではなく、日常業務および作業の中にも、イノベーションにつながる課題やヒントがたくさん潜在している。そのため、本特集では、7つのイノベーションを実現するために役立てていただけるように、図2の体系をもとに、日常業務と日常作業や職場の環境から各イノベーションにつながる課題発見のヒントとその改革の進め方のポイントおよび事例の一部をヒント集として紹介する。

課題を発見するキーワードは、日頃から感じている疑問・不満・不安や、気づいているムダ、見落としているムダを再認識し、勇気をもって声に

出すことである。

また、改革へ向けて最も大事なことは、まず、考えついたことは必ず実現できると信じ、できないと諦めないことであり、従来のやり方を固守しないで柔軟な発想を持つことである。その上で、上長をも巻き込んで、考えついたイメージを具体化し、進め方のストーリーを組み立てて着実に実行することである。従業員1人ひとりの小さな課題の発見が大きなイノベーションへのきっかけにもなり、企業の成長と発展に貢献できると確信している。

(小林 啓子)

図2 イノベーションを実現するヒント集の紹介

種類	ヒント集	
オーガニゼーション・イノベーション	①	先見的経営計画管理による経営体質変革
	②	グローバル視点での組織能力構築
	③	チーム制による自律型組織づくり
	④	組織スリム化
	⑤	働き方改革
	⑥	OB・シニア人材の活用
	⑦	5Sの活用による風土改革

種類	ヒント集	
シンキング・イノベーション	①	ものの見方・考え方の変化
	②	厳しい環境設定による思考の変革
	③	5Sの心の実現化
	④	改革運動やコンテストの実施

種類	ヒント集	
テクノロジー・イノベーション	①	発想展開マップの活用
	②	技術情報・ノウハウのデータベース管理
	③	技術者スキル管理
	④	技術力ポジショニングマップ
	⑤	生産・製造の固有技術の形式知化